

放課後デイサービス自己評価表

事業所名	りあんkidsスポーツクラブ
評価日	平成 30 年 7 月 31 日

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		指導訓練運動スペースを確保している。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		法廷人員配置基準より多く職員を配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○		完全バリアフリーで設計されており車椅子や身体不自由のお子さまでも安心して移動できる環境になっている。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		月1回の会議や昼休憩中に全職員間で目標設定、支援方法のすり合わせ、その支援の結果・改善策を共有している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		適時に運営に関するアンケートを実施し運営内容や支援内容についても改善に向けて取り組んでいる。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		公表している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	2019年度から外部アドバイザーを導入する予定
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		内外部の研修へ参加し資質の向上に努めている。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		保護者のニーズと子どもの状況や環境、将来的な目標を踏まえた上で支援計画を作成するように努めている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		児童用アセスメント評価シートを使用している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		様々な教材を活用し、支援計画に基づき目標達成に必要なプログラムを日々チームで考案している。また、各職員の得意とする分野や意見を取り入れるなど、それぞれが楽しい活動を取り組めるようしている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		季節行事を取り入れたり、外部講師を招くなど、子供たちの様子を見ながら変化をつけるように工夫している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		土曜日や長期休暇で、平日放課後でできないような、時間をかけてできるような活動を積極的に取り入れるようにしている。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		集団活動をメインに活動を計画しているが、ひとり一人課題を捉え、個々成長と集団と関わりなど、複合的な配慮をしている
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援の内容をホワイトボードへ掲示し、その内容、役割分担をスタッフ間で共有している。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		送迎後職員全体で終礼を行い支援の課題や問題点など確認と情報交換を行うようにしている。	

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	利用時には毎回記録を記入し、経過を振り返られるようにしている。欠席時や関係者と情報交換を行った際も記録するように努めている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○	定期的にモニタリングを行い、保護者・相談員に報告（提出）している。計画達成時や変更が必要な際はその都度相談し必要があれば見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○	ガイドライン策定以前から、基本活動内容障害児児童あるべき姿として捉えており、活動や保育に組み込む工夫をしています
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	児童発達支援管理責任者若しくは管理者に加え必要に応じて保育士や専門スタッフが参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○	学校と情報共有に関して、送迎の際に当日の様子や保護者への伝達事項等、連絡および情報交換をしている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○	医療的ケアが必要なお子さまを受け入れるときは事前に緊急時の処置や連絡体制を確認し会議を行ったうえで開始している。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○	他の児童発達支援事業所から放課後デイに移行の際は情報を提供していただき、法人内の児童発達支援事業所であれば就学前会議を行い情報の共有に努めている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○	現段階では、学校を卒業して障害福祉サービスに移行したケースがない。障害福祉サービスに移行するケースがあれば当然情報を提供する。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	必要に応じて児童発達支援センターの専門職員に助言をしていただいている。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○	地域の活動には積極的に参加しているが、学童クラブと活動する機会はない。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○	地域自立支援協議会の定例会議があれば参加している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	連絡帳や送迎の際に、こちら側が気になることは尋ねるようしている。成長や頑張ったことはその都度保護者に伝えている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○	日頃から発達や成長気づきを伝えるようにし、喜びを共感できるようにしている。交流会などで、先輩保護者と関わり機会を提供し、悩みなどを相談できる相手作りお手伝いをしている。
保護者への説明責任等	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	重要事項説明書を使用し説明同意を頂いている。変更が生じればその都度説明をしている。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	悩みや困ったことを、解決できるような支援につなげられるよう、ネットワークをもち、紹介やアドバイスするようにしている。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	保護者会、保護者向け勉強会を行っている。
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	苦情受付窓口担当者・苦情解決担当者・第三者委員会設置苦情や相談に真摯に対応し迅速な解決に努めるようにしている。
	㉔	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子	○	月初におたよりを発行している。

		どもや保護者に対して発信しているか			
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○		写真など取り扱いに、特に気をつけており、保護者同意を得ておたよりなどに使用している。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		皆さんに理解していただけるように、分かりやすい文書でまとめイラスト等を使用している。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		毎年、地域の方に夏祭りのご案内は行っている。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員は研修を行い周知している
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年に2回避難訓練と救出訓練を実施している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待を防止に向けての取り組みの研修会を定期的に行っている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		危険回避行動と虐待と違いを明確にし、適切な対応をするようにし支援計画へ明記を検討している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		アセスメントの際に食物アレルギーの確認を行い食事内容に十分注意している。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハット、事故トラブルなど、状況を記録し、検証する体制を整えており、再発防止に向けて取り組めるようにしている。